人口減少社会にどう対応するのか

困難であるが全力を尽くす

川野優治（かわのゆうじ）
緑政会

質 将来の人口推計によれば、本市では2040年には4割近く減少するとされている（2015年比）。急激な人口減少は、自治体運営にも深刻な影響を及ぼす。特に懸念される市民病院と集落の運営について伺う。

答 病院事務長

豊肥医療圏の2015年に対する2040年の減少の割合は、人口が38％、医療需要が8％、それぞれ減少する見込みとなっています。このように豊肥医療圏では人口の減少は激しいものの医療需要そのものは2030年頃まではほぼ横ばい、その後は徐々に減少していく推計となっています。

今後は、地域の人口減少に伴う医療需要の減少により当院の利用者数も徐々に減少していくことは避けられないものと想定しております。また、就労人口の減少による医療従事者確保の問題がいっそう危惧されるところです。

以上のことを踏まえ、今後の本地域の人口の推移等の状況を考えますと現在の病院の規模や機能を将来にわたり維持していくことは非常に厳しいものがありますが、当面は現在の取り組みを可能な限り継続してまいりたいと考えております。

答 まちづくり推進課長

本市では、過疎化や高齢化による人手不足により、市道等の草刈りや公民館の掃除、地区のお祭りなど、集落の共同作業が困難になっている小規模集落に対して、県と共同で小規模集落応援隊事業に取り組み、応援隊に登録していただいた地元企業やボランティア団体などを派遣し、集落の方と共同して、市道の草刈りなどのお手伝いをしているところです。

豊後大野市民病院

その他の質問
災害に対する備えは万全か

穴見眞児（あなみしんじ）
市民クラブ

地域医療について

連携強化を図る

質 清川診療所の移転統合により、地域から医療機関がなくなることについて行政はどう捉えるか伺う。

答 **市民生活課長**
これまで地域医療への熱い思いの中で診療をされてきた関愛会に対し、心から感謝申し上げます。しかし今回の移転統合は関愛会の将来に向けた経営判断であり、やむを得ないと考えます。今後とも市民が安心して暮らせるよう豊後大野医師会、市民病院をはじめとする他の医療機関との連携強化を図っていきます。

質 清川診療所が移転統合された場合、市民病院のサテライト的な運用の可能性は。

答 **市民病院事務長**
診療所に勤務する医師、看護師の確保、また事業を継続するにあたっての採算性を考えるとき、医師については常勤医師は20名で昨年度末から減員となっています。看護師についても退職者や求職者の補充に苦慮しています。採算性については、運営していくには相応の利用者が必要であることと利用しやすい環境づくり等の経営努力も必要となります。加えて、診療所はかかりつけ医と利用者の信頼関係の上に成り立つものと考えます。
このようなことから市民病院が安定してサテライト的に診療所を運営することは困難と考えます。

清川診療所

神楽会館周辺整備について

駐車区画数の確保に努める

質 神楽会館周辺の駐車場整備の計画は。

答 **まちづくり推進課長**
敷地内の駐車区画線の引き直し、空き地の利用さらには民間の所有地を借りて対応するなどしているが、来場者の方々には大変ご不便をかけています。
今後については、清川支所、公民館整備工事に併せて、会館南側の市有地の活用や仮設駐車場の舗装などにより駐車区画数の確保に努めます。

その他の質問
支所、神楽会館及び道の駅きよかわのエリアの賑わいの創出について